

## 第3学年 道徳学習指導案

日 時 10月15日(木)第5校時

場 所 3年教室

指導者 東出 真弓

1 主題名 生きる喜び 内容項目 3 - (3)

2 資料名 「ひまわり」 (出典 中学生の道徳3 自分をのばす 暁教育図書)

### 3 主題のねらい

内なる弱さや醜さと戦い、自己を奮い立たせることで、生きる希望や喜びを見出そうとする。

\* 内なる弱さに負けることなく、生きる希望や喜びを見出す強さに感動する。

\* 人間には内なる弱さや醜さと戦い、自己を奮い立たせることで、生きる希望や喜びを見出そうとする強さがあることを理解する。

\* どんなつらいことがあっても、弱さに負けることなく生きる希望や喜びを見出そうとする。

### 4 主題設定の理由

<ねらいの道徳的意味>

人間には、普段の生活の中で、安易な方へ流されたり、何かトラブルが起こったときに他人のせいにするなど、弱い部分、醜い部分がある。反面、弱い心に打ち勝とうと自己を奮い立たせ、前向きに生きていこうとする力も持っている。これが、強さではないだろうか。弱さと強さの両方を持つ人間の心は、弱さに打ち勝つことで、人間として「生きる喜び」に気づくことができる。そして、この気づきが気高さにつながるのではないだろうか。

<ねらいからみた生徒の実態>

6月と8月に行ったアンケートの中に「自分の弱さに負けないように努力していますか。」という項目がある。6、8月とも82%の生徒が「よくできている」「できている」と答え、大きな変化はなかった。しかし、「できない」と答えた生徒に目を転じると、6月の時点で18%存在していたものが、8月には0%となった。これは、生徒たちが、普段の学習や部活動などで、できなかったことを地道な練習の積み重ねによって、できるようになる成功体験や、生徒会や委員会活動でまわりから必要とされる経験を通して、認められる喜びを経験してきたことが少なからず影響している。このような経験から、「自分の弱さに負けない」ことを意識しつつあるという姿が見える。しかし、自分に自信がもてずに、多少の劣等感を抱きながら、傷つくことを恐れ、易きに流れていくこともまだまだたくさんある。自分の弱さを自覚し、それを乗り越える強さが、自分を含めた人間の中にあることを知り、だれに対しても、その人間としてのよさを見出そうとする態度を育てていきたい。

<資料の道徳的教育的意味>

健康だった女子中学生が、突然の病によって体の自由を奪われる。主人公は、苦しみ、自暴自棄

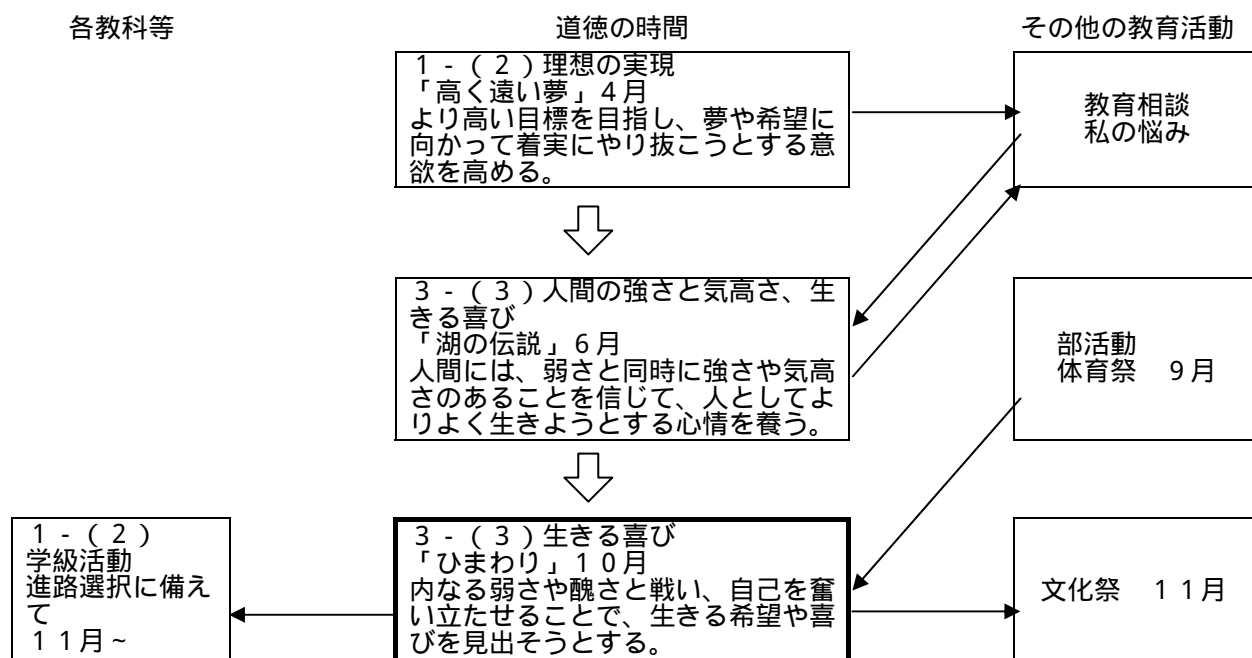
となって周囲に八つ当たりし、死にたいとまで考えるようになる。しかし、ふとしたことから気持ちに変化がもたらされる。

資料の中での主人公の苦しみは、想像を絶する。このような絶望感を経験した生徒はほとんどいないと思われるが、その苦しみからくる弱さには共感できると考える。さらに、死にたいとまで考えた主人公が変化したのはなぜなのか考え、心の変化を呼び起こした原動力となったものを考えることで、主人公の思いに重ねて自分たちの生きる希望や喜びに気づかせたい。

### 5 研究課題との関連（ 「心のノートの効果的な活用」 ）

資料をきっかけに、自己の中に弱さと戦う強い気持ちがあることを知り、その気持ちは、まわりのいろいろなものに支えられていることを知る。さらに、心のノートの1枚の写真から視覚的にとらえることで、本時の主題が、より生徒の心に届くのではないか。

### 6 関連連携のための指導計画



### 7 資料分析

場	中学二年生の時			ある日、手術後初めての散歩			二年後
状況	突然の病、植物状態を経て、障害者となる。	鏡で自分の姿を見る。思うように体が動かない。	ヒステリーを起こす。死のうと思っても自分で死ぬことすらできない。	まわりの景色の美しさに気がつく。死ぬ意志は次第に消えうせた。	患者さんの姿、笑い、明るさを忘れていたことに気づく。	励ましや優しさを素直に受け止められる。何ができるのか考えた。リハビリに精をだす。	退院の日。大きなひまわりが午後のまぶしい日差しをいっぱいに浴びて輝いていた。
主人公の心の動き	この日を境に私の人生は大きく変わっていった。	気が狂いそう。	なぜ、私だけ？ どうしてこんな病院へ私を連れてきたの？ やる医者。	何でこんなきれいなところから自分はいなくなるうたしているんだろう。	死のうと思っていたことがばかばかしく思えた。母は私がいけないと生きていけないのでは・・・。	負けるものか、私もどうにか歩いてみせる。	私は生きていたんだ、生きぬいて見せるぞ。

8 準備 副読本、心のノート、ワークシート、フラッシュカード

9 展開

主な学習活動	指導の方法	生徒の心と力の高まり
資料（麻衣手書きの作文前半）を読む。	資料の作文の部分だけを印刷したプリントを配る。 麻衣についての簡単な説明をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして、こんなに字が乱れているのか。</li> <li>・ 「力のない様な者でも、必ず誰かを助ける」とはどういうことなんだろう。</li> </ul>
<p>「ひまわり」を読んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者となった麻衣の苦しみに共感する。</li> <li>・ 麻衣の心が変化したのはなぜか考える。</li> </ul> <p>資料後半（麻衣手書きの作文後半）を読む。</p>	<p>あらすじを簡単に押さえる。</p> <p><b>発問</b> - 障害をもつことになった筆者は、どんな気持ちだったのだろう。 一転して思うように体が動かない筆者の苦難を想像させる。 苦難に直面し、絶望感に打ちひしがれることは人間共通の弱さであることを押さえ、麻衣の心に共感的に捉えさせる。</p> <p><b>発問</b> - 死のうとまで考えていた麻衣が、前向きに生きようとしたのはなぜだと思うか。 麻衣が、前向きになった理由をより深く考えさせるため、副読本を一旦閉じさせる。</p> <p>心のノート p 6 6（新 p 7 2）の写真と麻衣の姿を重ねて考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ、わたしだけこんな目にあうのか。くやしい。</li> <li>・ 私が何をしたというのか。</li> <li>・ こんなことになるのだったら、死んだほうがまだ。</li> <li>・ もう、なにもかもいやだ。</li> <li>・ 自分だったら耐えられない…。</li> <li>・ このままじゃいけないことに気付いたから。</li> <li>・ 自分が甘えていたことに気付いたから。</li> <li>・ ずっと支えてきてくれた母に答えたいから。</li> <li>・ つらいのは自分だけではないことがわかったから。</li> <li>・ 自分より小さい子が、リハビリを頑張っていたから。</li> </ul>
今日の授業を振り返る。	<b>発問</b> - もし、君たちがこれからの人生で挫折するときがあったら、どんな心構えで生きていくことが大切だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たとえ絶望しても、そこから立ち上がる力があることを信じる。</li> <li>・ つらいのは自分だけじゃなく、まわりを見れば、支えてくれる人々がいることを信じる。</li> </ul> <p><b>評価</b> どんなつらいことがあっても、弱さに負けることなく生きる希望や喜びを見出そうとしている。</p>

